

第26回セミナーを開催

— 新事業「非木材グリーン協会アワード」を紹介 —

NPO 法人非木材グリーン協会は5月16日、東京・日本橋茅場町のTKP 東京ビジネスセンターで「第26回セミナー」を開催した。

本セミナーでは、協会が先ごろ実施を公表し、現在作品を募集している「非木材グリーン協会アワード」の概要説明と、オイルパーム空果房をはじめとしたバイオマス利用とLCA評価、およびカーボン・ニュートラルの考え方に関する講演が行われた。

(1) 非木材グリーン協会アワード2014と未利用非木材利用(同協会専務理事/守屋浩氏):「未利用非木材素材を活用した斬新なアイデアで創り出す作品の募集」をテーマとした表記アワードの概要を説明、さらにサトウキビバガス、タケ(バンブー)、オイルパーム(油ヤシ)空果房、アシ(ヨシ)、コットンリントナーなど、農業副産物または天然の未利用非木材の特徴を述べた。

このうちアワードについては目的を、①デザイナー、クリエイター、大学生などに広く未利用非木材を知ってもらう、②エントリーされた作品の企業への提案を期待、③表彰された作品を企業で採用する可能性を問う—としており、協会はきっかけづくりや企業との橋渡しの役割を担う。

作品については主催者が指定する未利用非木材素材を活用することを条件とし、平面・立体など形状は不問、出品料は1点当たり5,000円(学生2,000円)となっている。

なお、指定素材、実施スケジュールは以下の通り。

〔指定素材〕

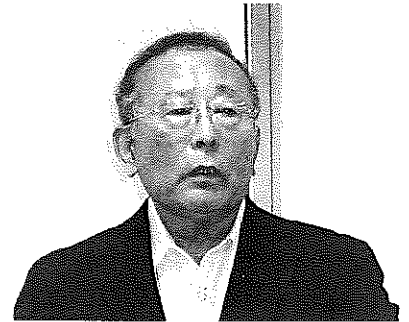
紙: バガスパルプ使用=バガスケント CoC, グレートバガス, ニューズトタケパルプ使用=竹紙100 ナチュラル, 竹紙100 ホワイト▷オイルパーム空果房パルプ・クマザサパルプ・緑茶茶殻使用=平判原紙(パームヤシックスペーパー, ササックスグリーン, ティーリミックス), G フルート段ボール(両面シート, 表面に前記3銘柄を使用, 同(片面シート, 液面に前記3銘柄を使用)

パルプ: バガス, オイルパーム空果房

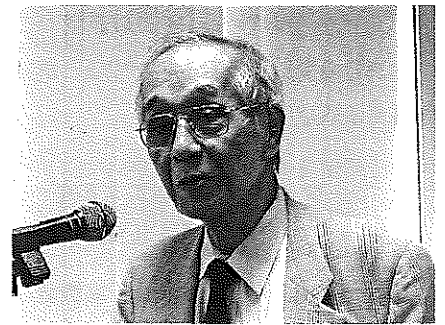
〔スケジュール〕

募集期間: 募集中~5月30日▷作品提出: 6月16~20日▷審査: 7月▷結果発表: 8月▷表彰式: 9月予定(表彰後に展示会やビジネス活用を別途検討)

(2) カーボン・ニュートラル: バイオマス・紙製品の行く末は?—LCA研究の再評価(同協会副会長・東京農業大学客員教授/飯山賢治氏): 冒頭、NHKの報道における、①木質廃棄物を焼却するとCO₂が発生するため、チップにしてマルチまたはボードにする、②ポツリオコッカスという藻から抽出した油を軽油に混合して自動車を走行—による地球環境への寄与を例示し、これらが正しいかどうかを提起。①では、木質廃棄物はカーボン・ニュートラルの考え方から焼却時に排出され



専務理事・守屋浩氏



副会長・飯山賢治氏

るCO₂はカウントされず、カウント対象となるCH₄、N₂Oも、ボード等にして一定期間使用した後焼却すれば同様に発生すると指摘。また②に関しても報道内容のみでは判断できず、誤解を招く報道には注意すべきとの見解を示した後、IPCCが示すカーボン・ニュートラルの原理と概要を解説。

さらに、化石燃料の焼却や黒液・パルプおよび紙製品の終末焼却処理にもなって発生するCH₄およびN₂O、原料作物などの栽培時に窒素肥料から発生するN₂Oを加味し、パルプ原料の栽培・発生、輸送と加工、パルプ製造の各ステージにおけるCO₂固定・発生量を算定して行った「オイルパーム空果房およびユーカリを原料とする化学パルプ製造のLCAの再評価」をデータとともに提示した。